

〈支援企業を訪問しました〉

大真パッケージ株式会社 殿

「全社員の総意と工夫で安心・安全な製品で顧客に感動を！」

大真パッケージ株式会社の蓮沼秋夫社長は、企業勤務時代に苦い経験を味わったことから、「みんなが安心して働け、地域に貢献する工場」を作ろうと決心し、1982年に埼玉県吉見町にて包装フィルムのスリット加工業を始めました。

その後、軟包装袋物専用工場を目指して製袋分野に進出、三方袋（封筒状の袋）から現在主力の自立袋（底にマチのある袋）へと常に需要の動向を見極めながら、事業の重点を移して順調に業容を拡大してきました。この間1987年に有限会社大真パッケージへと法人化し、2003年には工場も桶川市に移転しました。

軟包装袋とはプラスチックフィルム等を袋状にしたもので、食品や医薬品を直接包装するのに使われることが多いため、厳しい衛生管理や防虫管理対策が要求されます。当社は2007年に軟包装衛生協議会により、準認定工場に認定されましたが、必ずしも5Sや標準化の面で満足できるレベルとはいえ、また従業員の教育訓練にも悩んでいました。そこで、桶川市商工会に相談したところ、上尾・アブセックを紹介され支援を要請致しました。



新工場を背にした蓮沼社長

上尾・アブセックは品質管理・ISO等の管理・技術の専門家 武藤達雄氏を紹介し、支援を開始しました。その結果、標準書はISOマニュアル方式に改定、衛生管理や教育などの手順書を整備、工程改善が進み工場にますます活気が出てきました。



更なる発展を目指し本年5月には本社工場を鴻巣市箕田に移転すると同時に大真パッケージ株式会社に改組しました。

当社は、2012年に「クリーン工場とR加工の自動化・チャック付き製袋加工による市場拡大」をテーマに経営革新計画承認を取得しましたが、今回の工場新設により目標達成に大きく前進しました。次はチャック付き製袋加工の導入実現を目指しています。さらに来年春には、準認定工場から認定工場（食品の充填を行っても良いレベル）に進化する予定で現在活動中です。

当社のユニークな活動に「日本一の活力朝礼」があります。朝礼は家庭から会社への気持ちを切り替え、全社員が創意と工夫で安心・安全な製品を造りお客様に感動を届けるため、大きな声で挨拶し、生き生きとした心で作業に移る重要なスタートと蓮沼社長は考えて実施しているものです。

蓮沼社長は「素晴らしい社員と共に、安心・安全な製品を製造しお客様に感動を与える事を念頭に経営するために今後ともアブセックの支援をお願いしたい」と結ばれました。（中川 記）



ご意見・お問い合わせはこちらまで

上尾商工会議所 桶川市商工会 伊奈町商工会 北本市商工会 鴻巣市商工会

アブセック事務局 TEL 048-773-3111 E-mail abcec@ageocci.or.jp